## 多素子化超伝導転移端センサによる光子撮像デバイスの開発

## Superconducting Transition Edge Sensors Array

## for Development of Photon Imaging Device

産総研<sup>1</sup>, 日大院理工<sup>2</sup> ○(P)今野 俊生<sup>1</sup>, 鷹巣 幸子<sup>1</sup>, 小林 稜<sup>1,2</sup>, 服部 香里<sup>1</sup>, 井上 修一郎<sup>2</sup>, 福田 大治<sup>1,2</sup>

AIST<sup>1</sup>, Nihon univ.<sup>2</sup>, <sup>o</sup>Toshio Konno<sup>1</sup>, Sachiko Takasu<sup>1</sup>, Ryo Kobayashi<sup>1,2</sup>, Kaori Hattori<sup>1</sup>,

Shuichiro Inoue<sup>2</sup>, Daiji Fukuda<sup>1,2</sup>

## E-mail: t.konno@aist.go.jp

超伝導転移端センサ(Superconducting Transition Edge Sensor: TES)は超伝導薄膜から成り,超伝 導相から常伝導相へ転移する温度域(転移幅)において,単一光子の入射エネルギーを抵抗値の 変化および読出し回路の電圧信号変化として検出することで,非常に高い温度感度,高エネルギ 一分解能,小さい暗計数率および低ノイズをもつカロリメータとして動作する<sup>[1]</sup>。

我々は TES をバイオイメージングに応用するべく,可視光域から近赤外波長領域にわたる光子 を検出・分光して高速でスペクトルを得ることを目的としている。我々のグループでは,単一の TES 素子で既に上記波長域の光子を検出・分光してイメージング画像を得ることに成功している <sup>[2]</sup>。本研究では,より高速に単一光子分光イメージ画像を得るために,TES の多素子化の検討を 行っている。受光面内での充填率向上のため TES 素子を近接して配置する場合には,TES 同士の 熱的クロストークが問題となる可能性がある。また,配線などの TES 以外の部分に吸収された光 がノイズを生む原因になると考えられる。そこで,これらの問題を検討するため,大きさ 8 μm×8 μm の TES を 3 種の異なるピッチ 10 μm, 12 μm, 14 μm で配置した 3×3 ピクセルの TES アレイを それぞれ作成した。Fig.1 にピッチ 10 μm の TES アレイおよび周辺配線の顕微鏡画像を示す。本 研究では,特に TES 間の熱クロストークについて詳細な検討を行い,その結果について報告する。

- K. D. Irwin and G. C. Hilton: "Transition-Edge Sensors" Chr. Enss (Ed.): Cryogenic Particle Detection, *Topics Appl. Phys.*, **99**, pp. 63–152 (2005).
- [2] K. Niwa, T. Numata, K. Hattori, and D. Daiji: "Few-photon color imaging using energy-dispersive superconducting transition-edge sensor spectrometry", *Sci. Rep.*, 7, 45660 (2017).
- [謝辞] 本研究の一部は,JST,CREST, JPMJCR17N4 及び AIST 超伝導クリー ンルーム CRAVITY の支援を受けたも のである。



Fig. 1. Optical micrograph of  $3 \times 3$  pixel array of microcalorimeters. The size of TES is  $8 \,\mu$ m×8  $\mu$ m. The pitch of TES is 10  $\mu$ m. The thickness of TES (Ti/Au) is 20 nm / 10 nm. Nb wiring exhibited line width of 1  $\mu$ m and thickness of 100 nm.